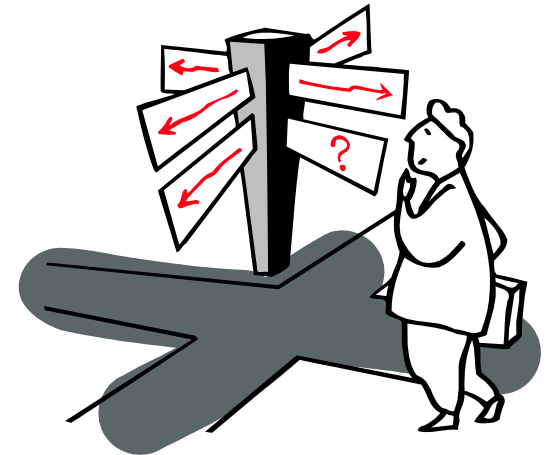


マネー資本主義から 里山資本主義の時代へ

2014年6月20日

株式会社 日本総合研究所 調査部 主席研究員
株式会社 日本政策投資銀行 地域企画部 特任顧問

もたに
藻谷浩介 kosuke@motani.com



“里山資本主義” とは何か？

2

「マネー資本主義」の欠陥を補うサブシステム (保険)

← お金を使わない経済も重視 / 地域内循環を重視

！ 里山や離島に眠る、金銭換算すると無価値の資源

①耕作放棄地、②立木、③半端モノ/農産品、④退職者、⑤野獣...

！ でもこれを資本として活かすと、水 / 食料 / 燃料 + α を自給 + 物々交換できる (← 農山漁村では常識ですが...)

①自給 + 物々交換で、地域外に出て行くお金を減らせる、②食糧 + エネルギーの自給率が高まる、③工夫次第で外からお金を稼げる

！ さらに成熟社会の安心・安全を増す効果も！

④元気な高齢者が増える、⑤若夫婦の田舎移住が子供を増やす、
⑥周囲と絆を持つ人間が増える、⑦マネー資本主義の機能不全に対して、バックアップを得ることができ、天災時等に効果を発揮する

マネー資本主義と里山資本主義³

マネー資本主義

動機

自分が、いま、一番になる

目標

お金儲けの一番を目指して
際限なく稼ぎ、貯め込む

戦略

粗暴バージョン：
他者/他集団から奪い取る

知能バージョン：
未来/次世代から搾取する
← 簿外資産を浪費して蓄財する
(地下資源、水、土壌、大気、子供、絆...)
← 借金や汚染物質を後世に残す

手法

等価交換 / 金融投資
自由競争 / リスクの個人化

里山資本主義

社会が減びずに続いていく

代わりのいない存在になる
= 稼いでは回しバトンをつなぐ

素朴バージョン：
何でも自給自足する

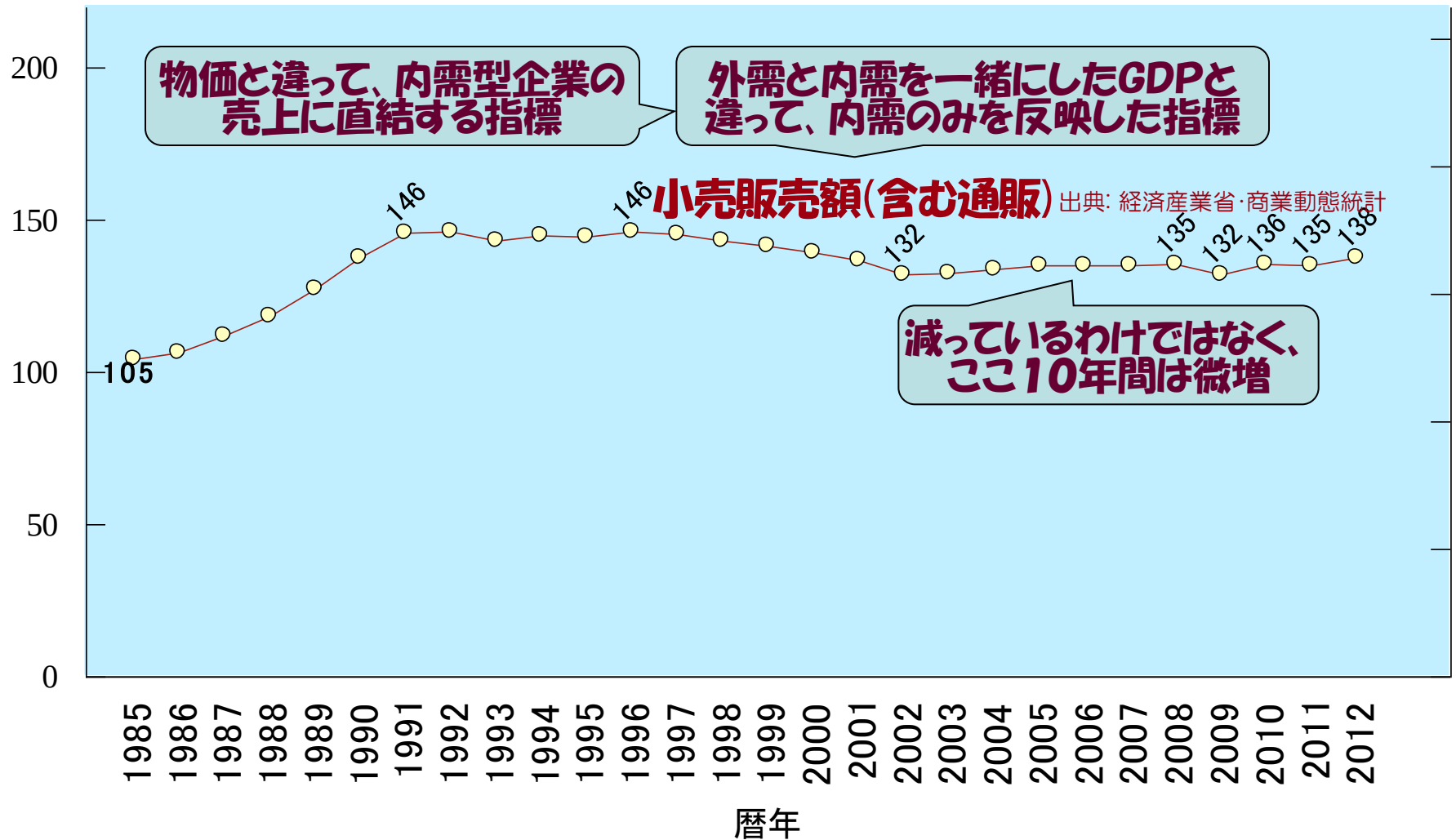
成熟バージョン：
循環・再生が可能な範囲で
ほどほどに稼ぎ、使う
← 使ったものは元に返す
← 良いノウハウと清浄な環境を残す

物々交換・贈与 / 実物投資
協働 / リスクの社会化

20年間横ばいのままの小売販売額

兆円

「失われた20年」に何が起きてきたのか？

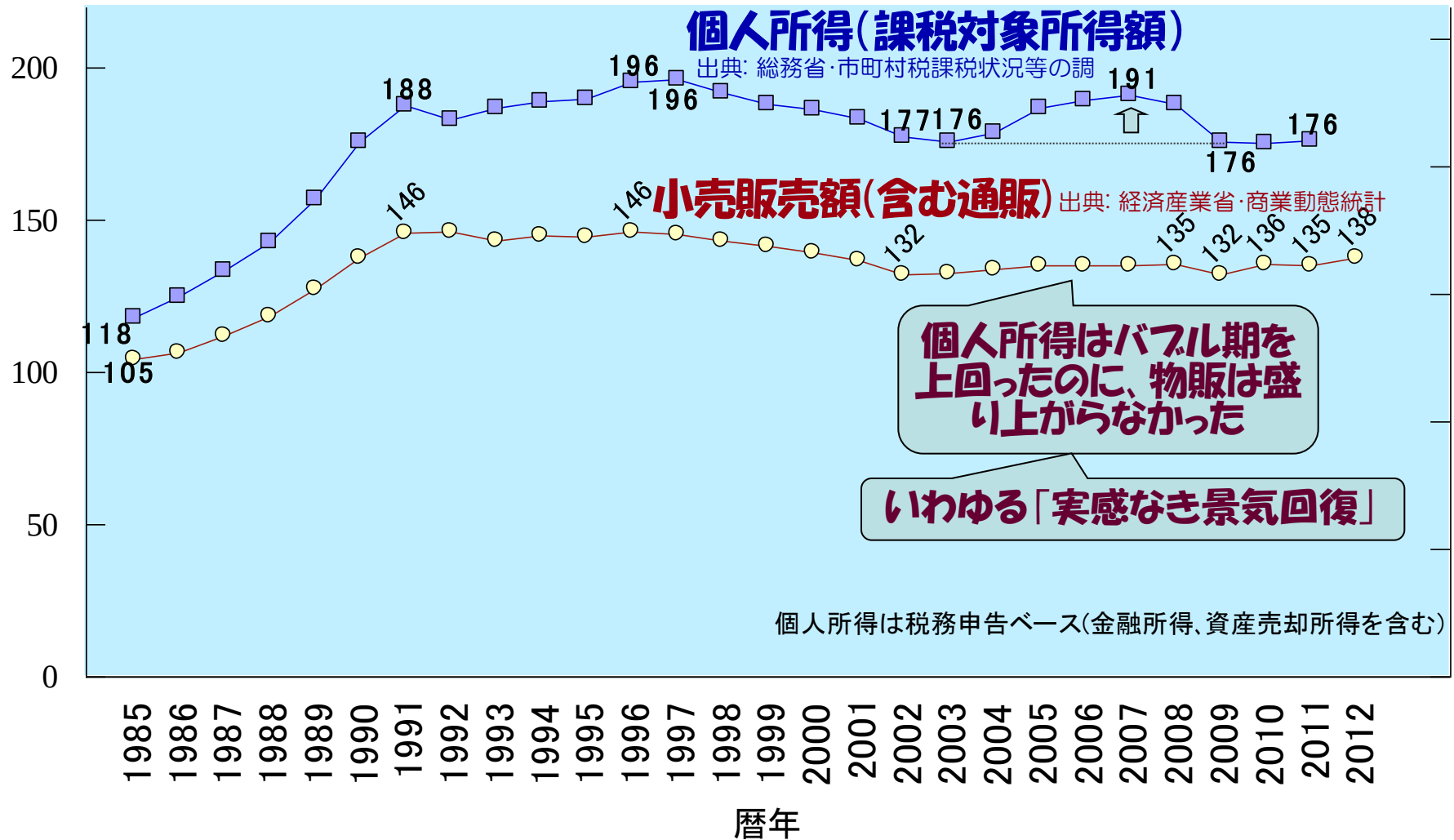


20年間横ばいのままの個人所得

5

兆円

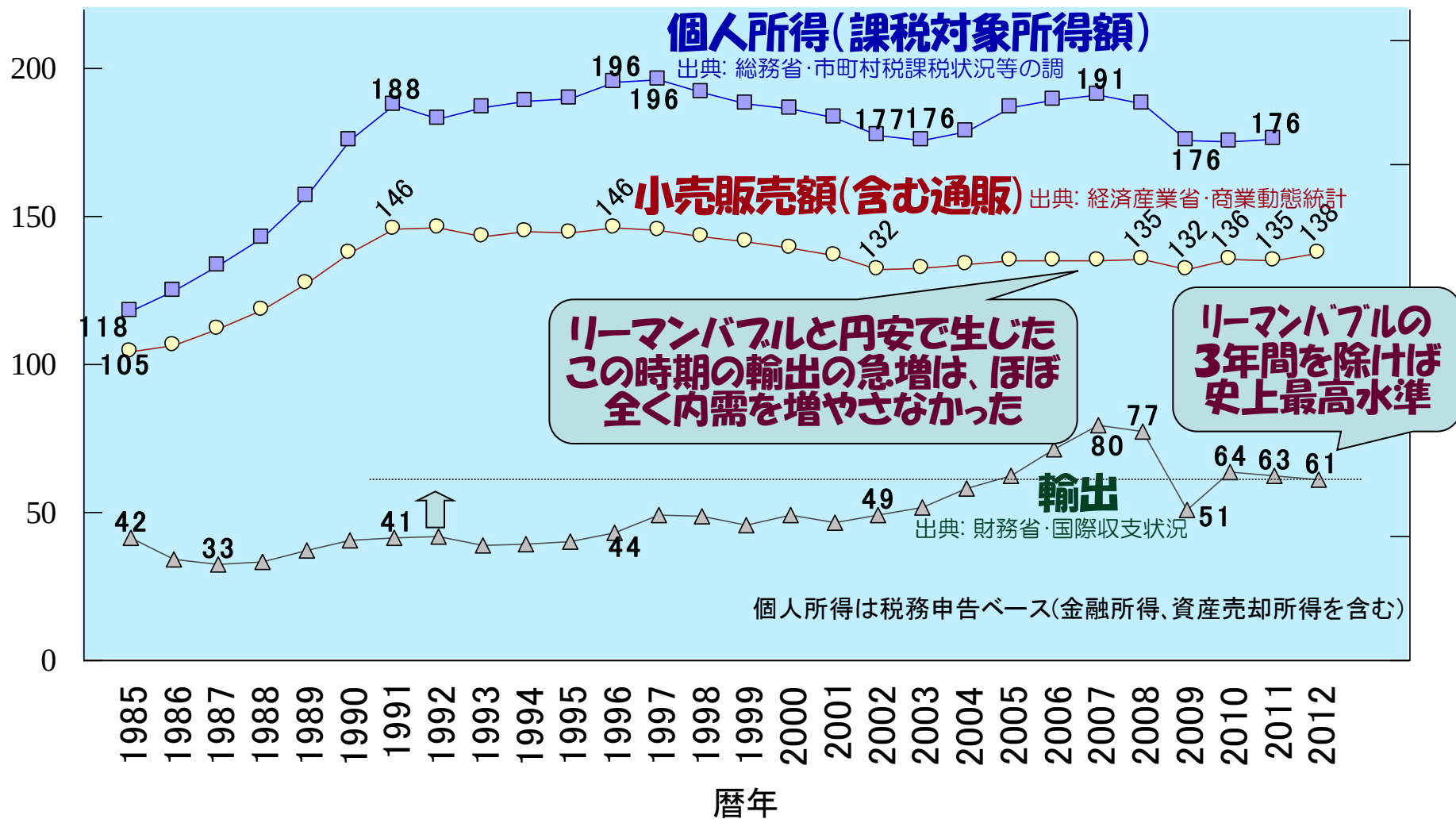
「失われた20年」に何が起きてきたのか？



輸出増でも増えない所得と消費

兆円

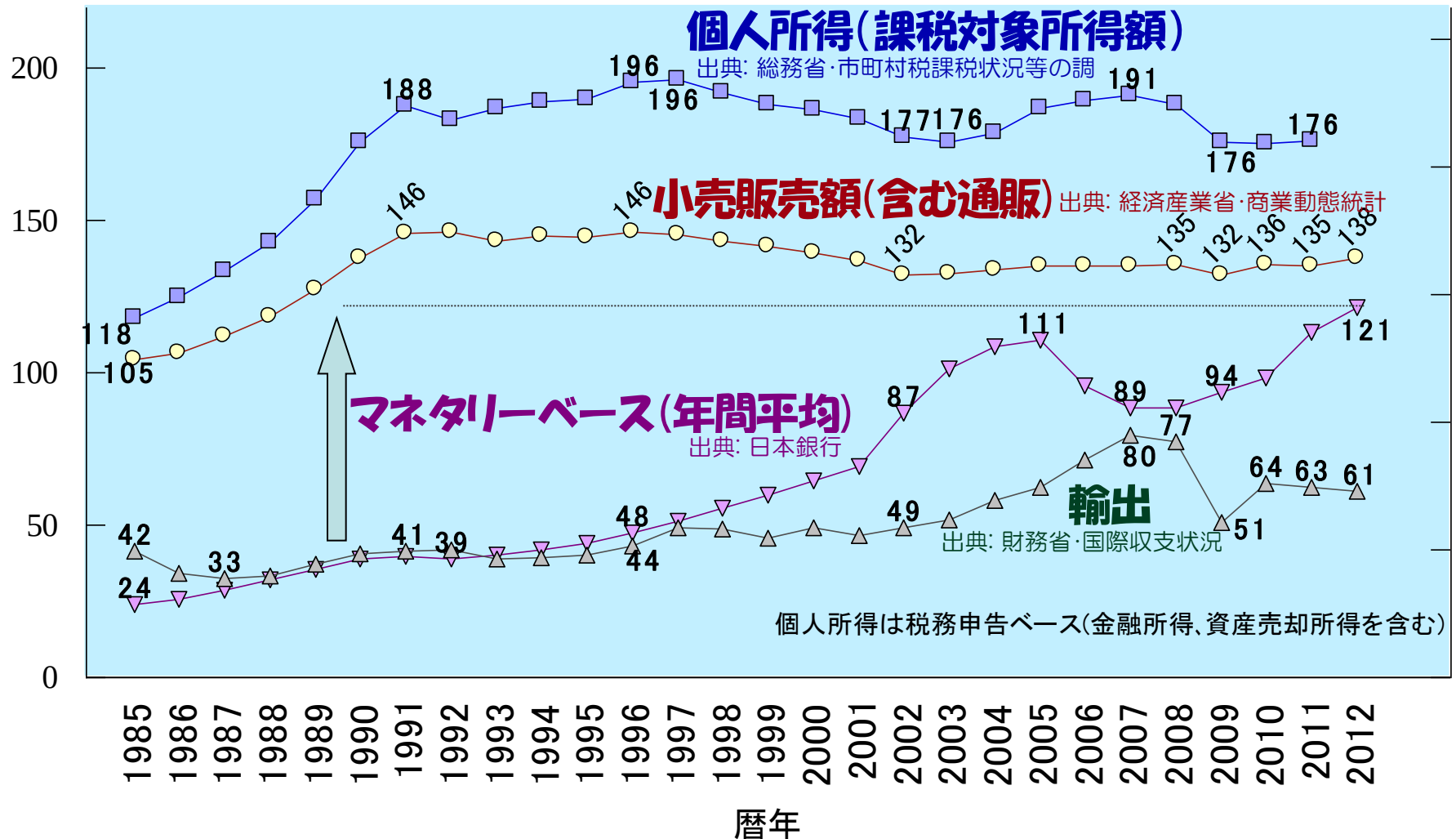
「失われた20年」に何が起きてきたのか？



金融緩和に無反応な所得と消費⁷

兆円

「失われた20年」に何が起きてきたのか？

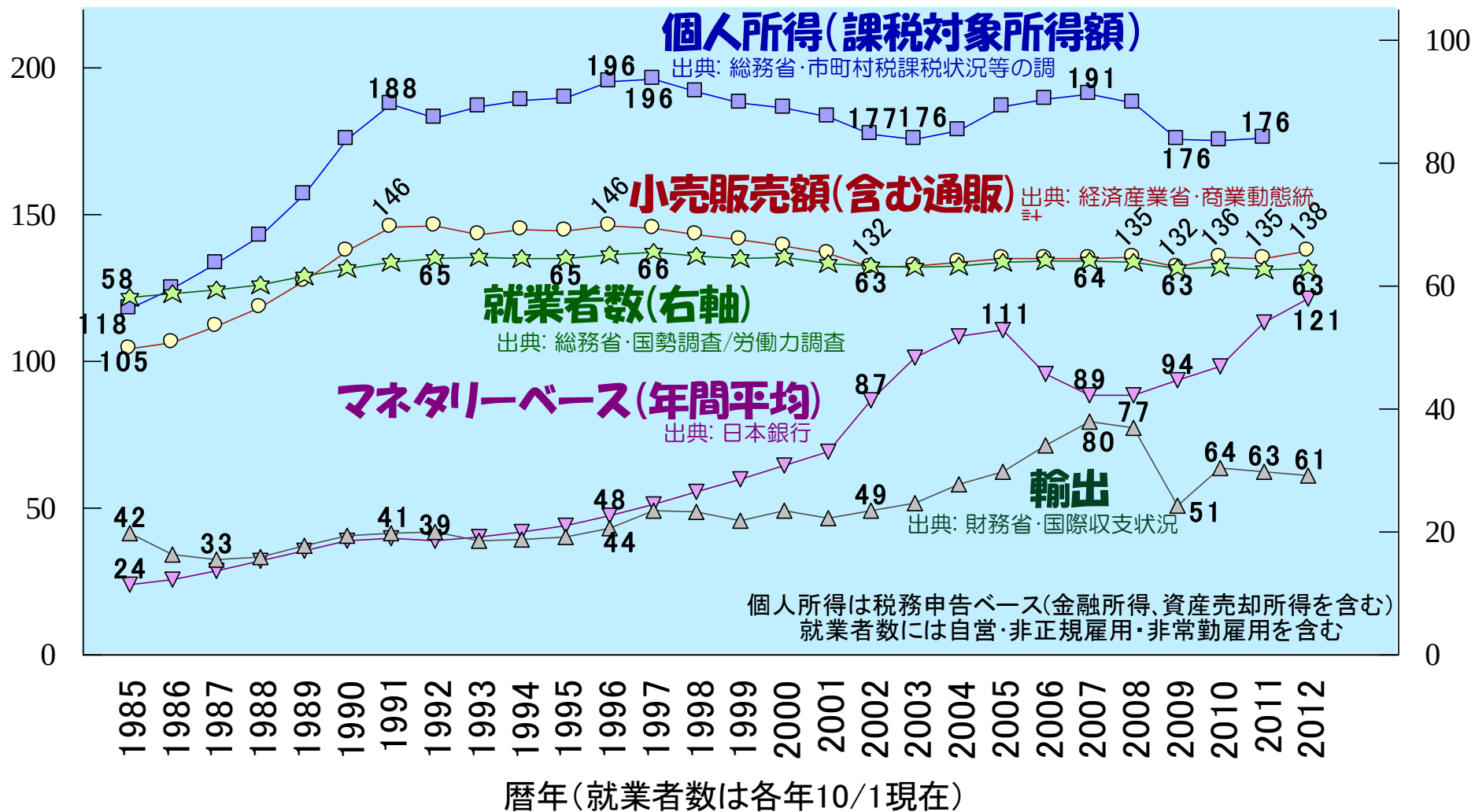


所得と消費は就業者数に連動

兆円

「失われた20年」に何が起きてきたのか？

百万人

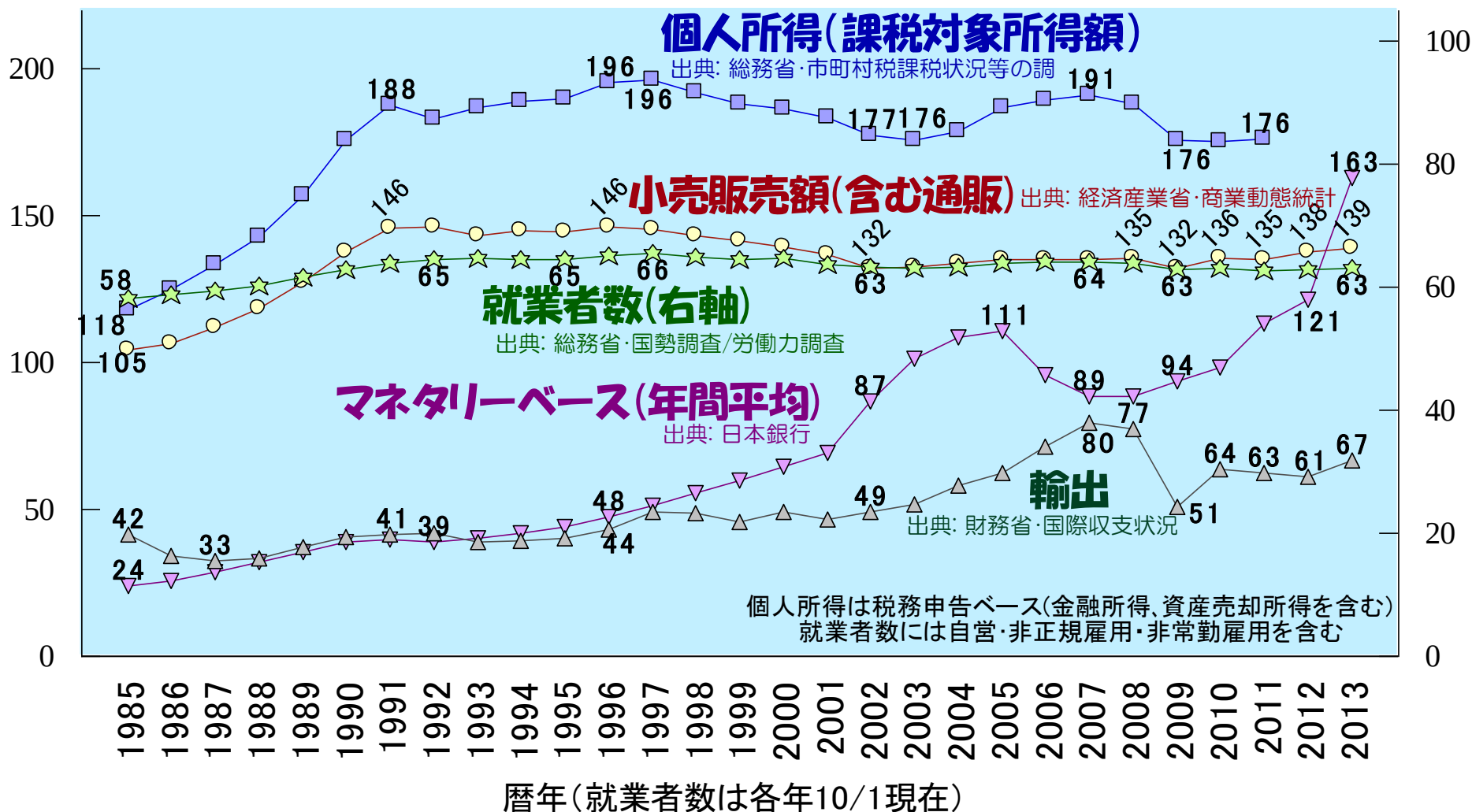


「異次元の金融緩和」の空回り

兆円

「失われた20年」に何が起きてきたのか？

百万人

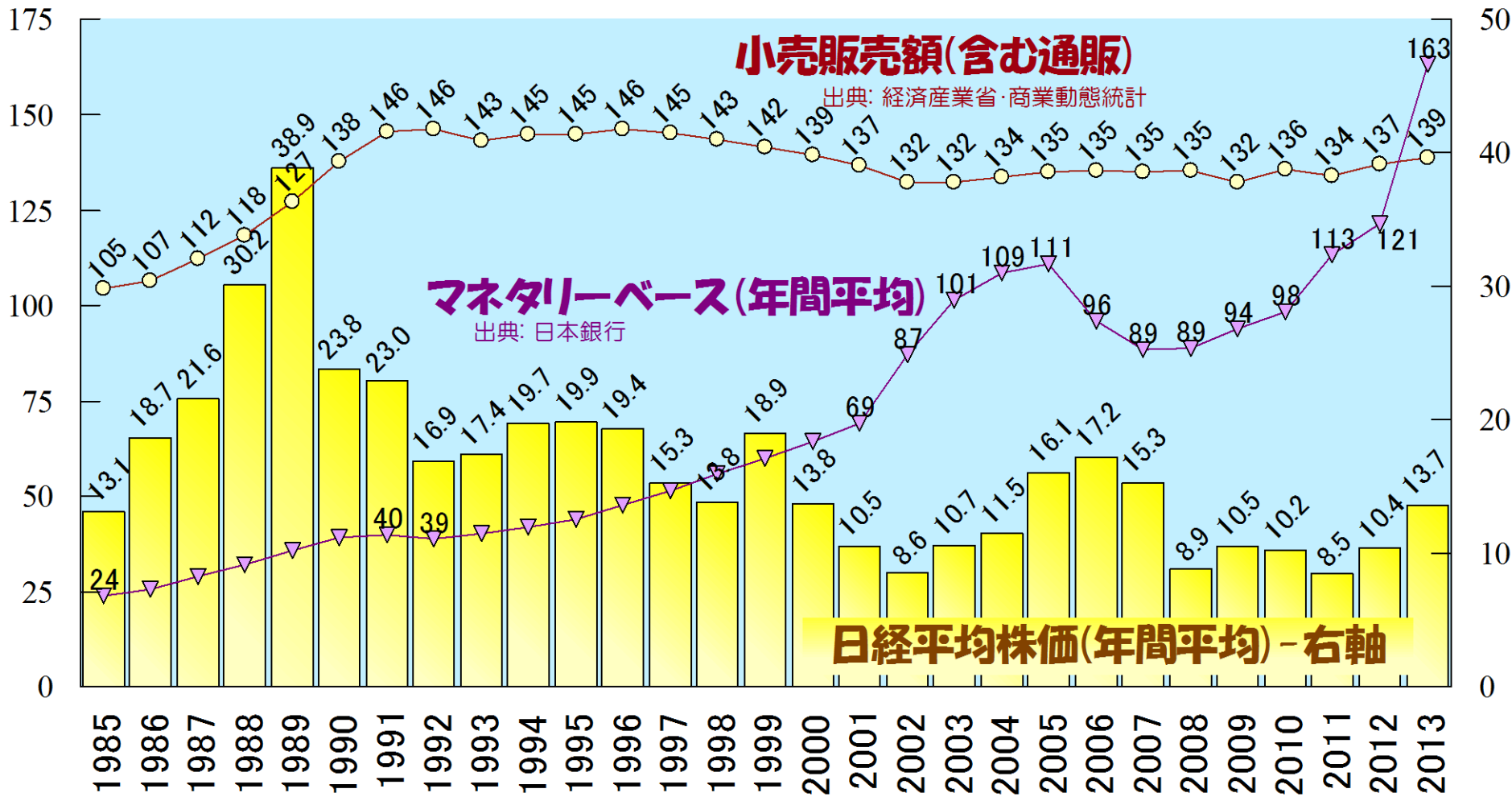


株価の上下が内需に影響しない日本¹⁰

「失われた20年」に何が起こってきたのか？

兆円

千円



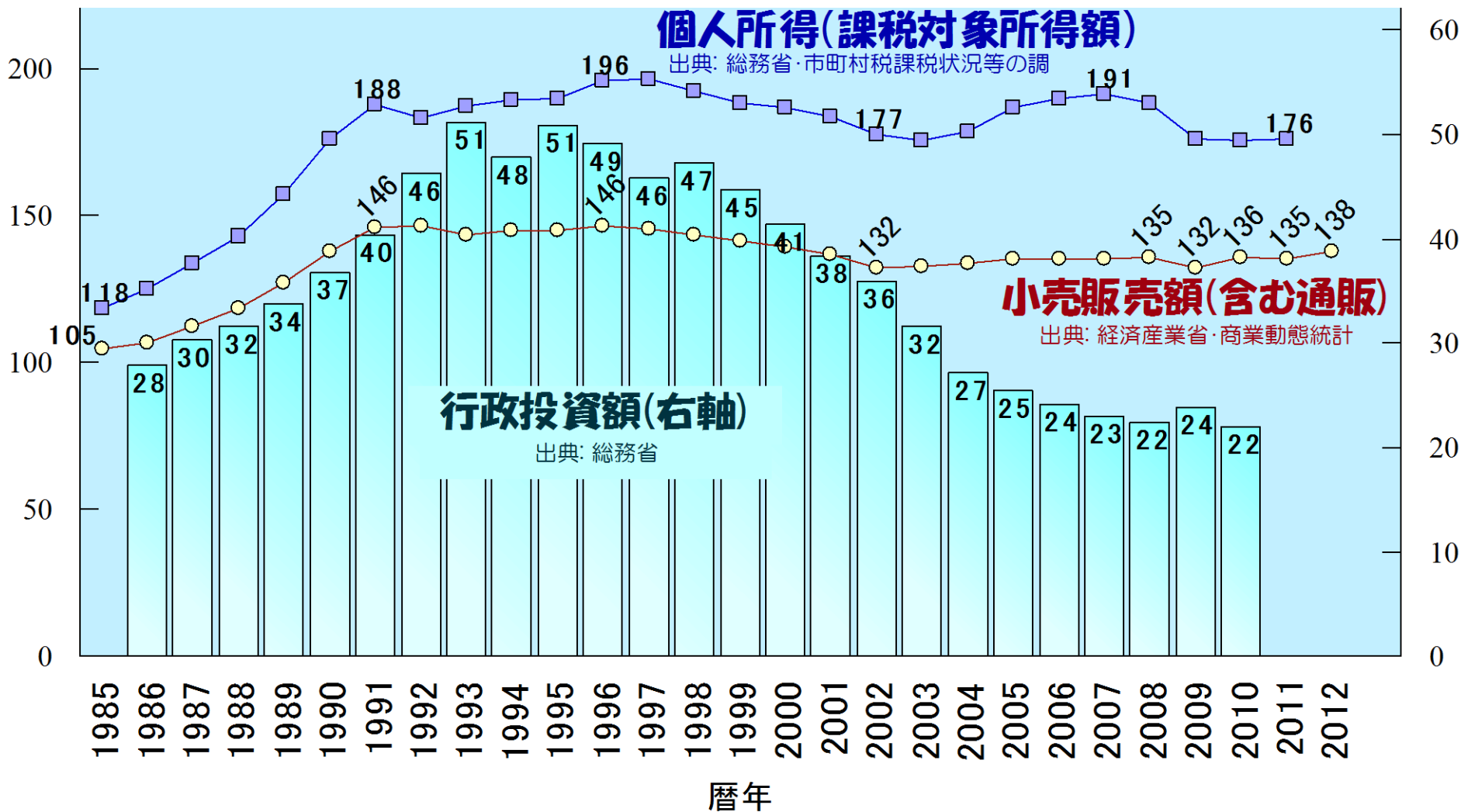
暦年(小売販売額は2013年以外は年度)

公共投資増減と内需・所得も関係薄¹¹

「失われた20年」に何が起こってきたのか？

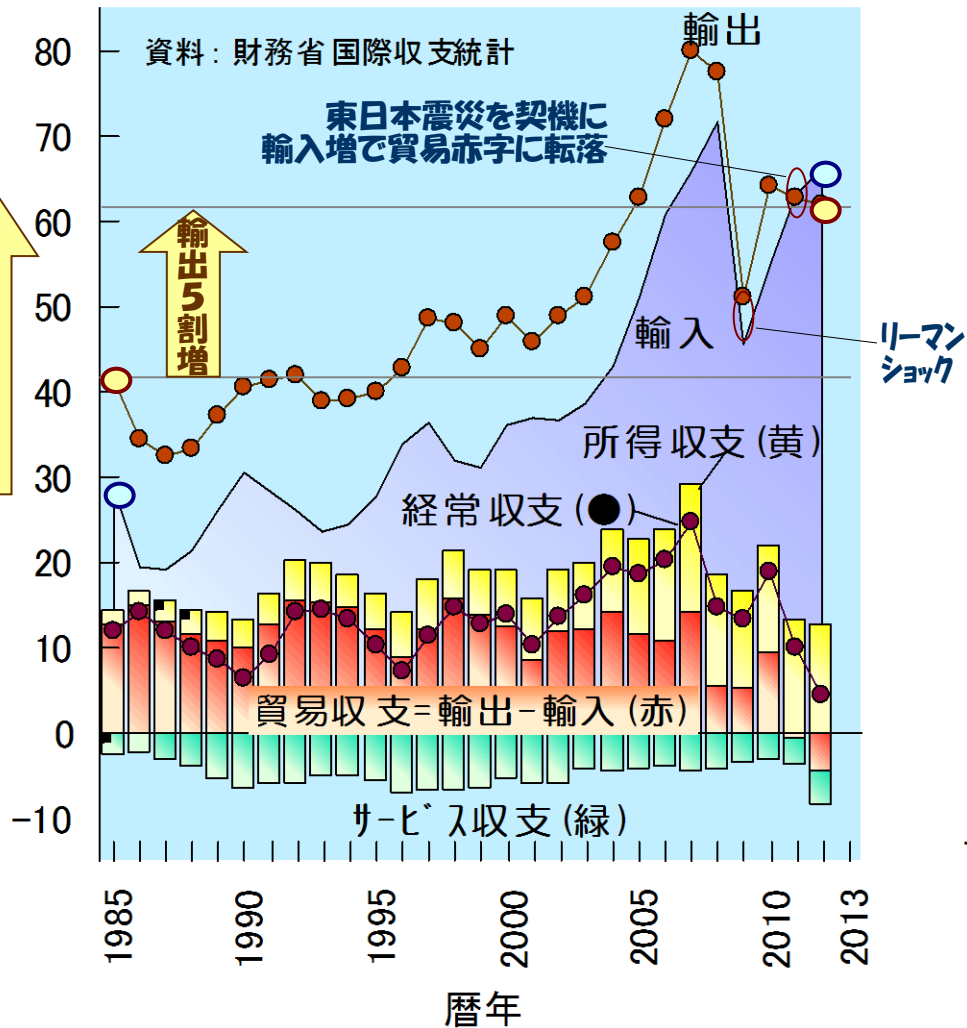
兆円

兆円

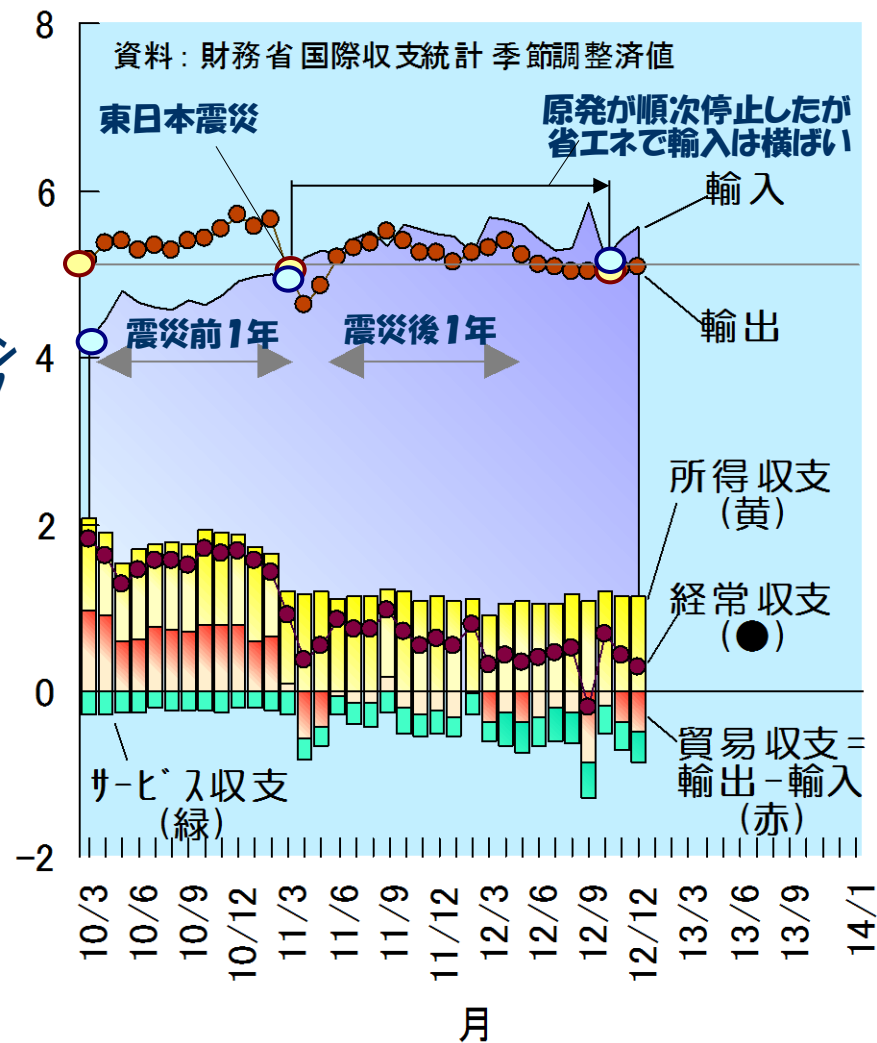


アベノミクスまでの国際収支

兆円 日本国際収支の長期推移

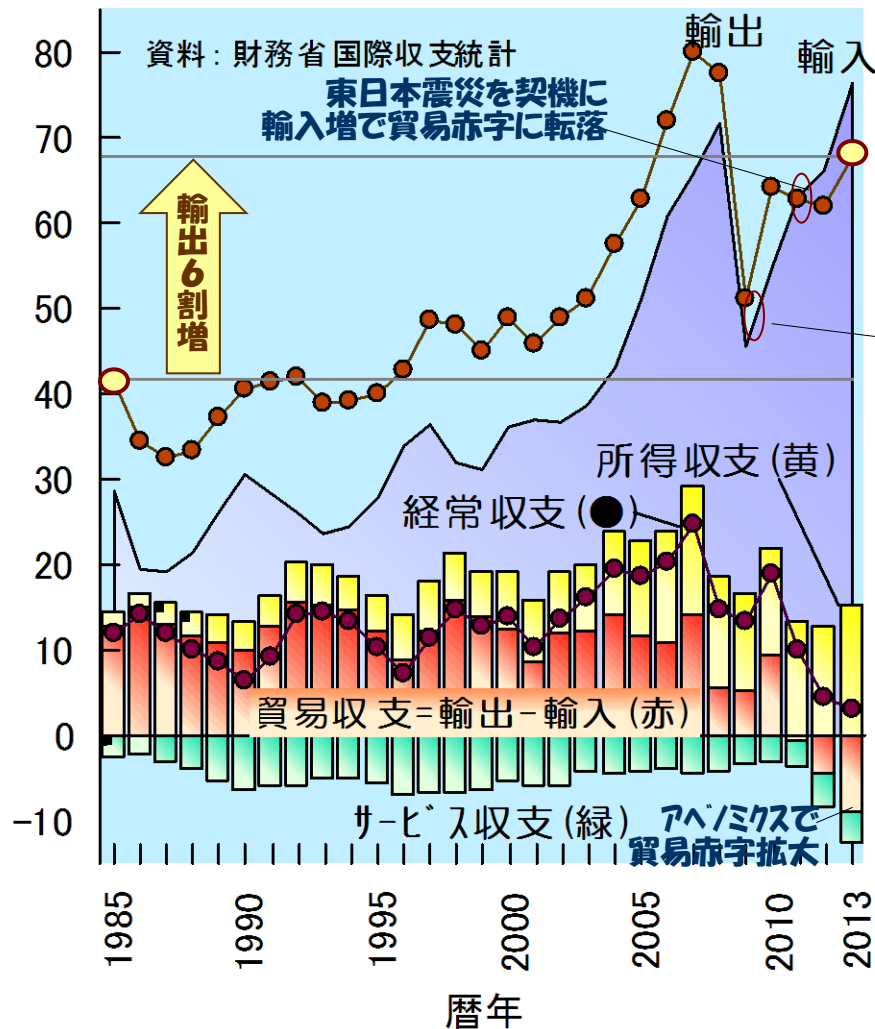


兆円 日本最新の国際収支

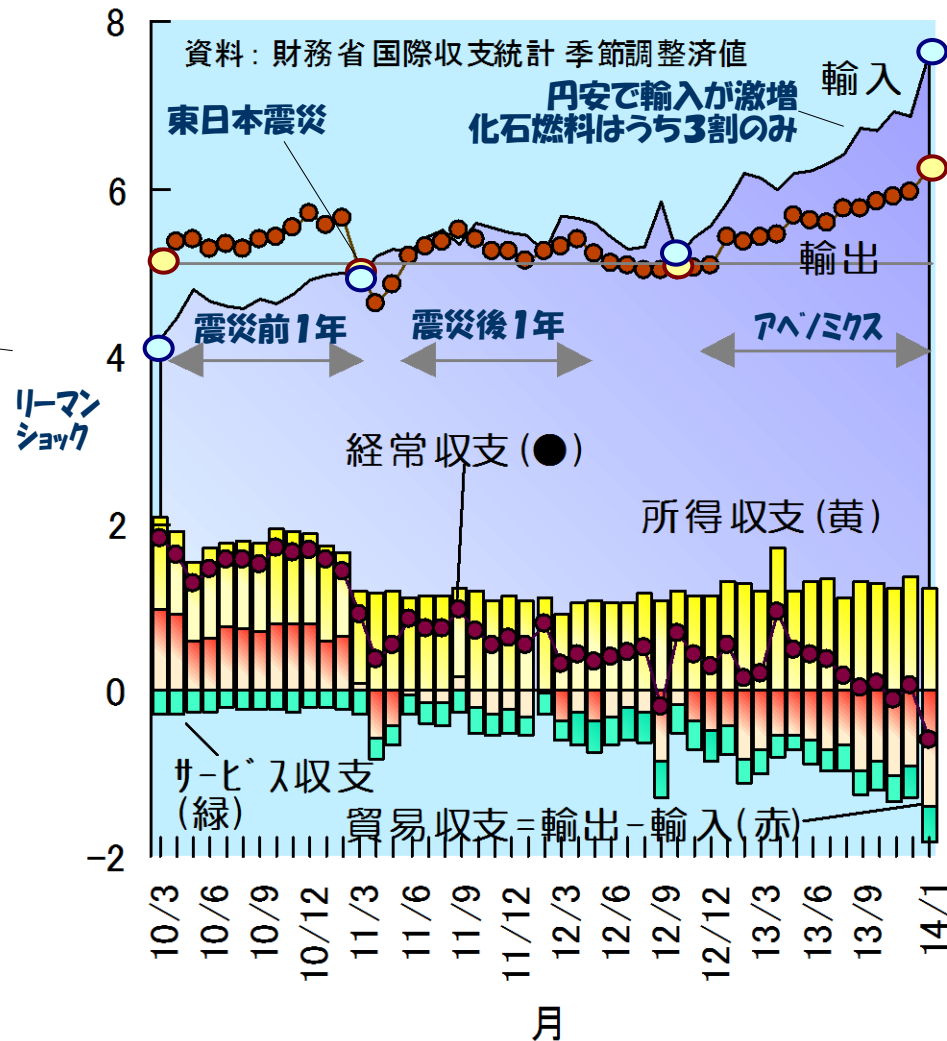


円安で輸入額激増→赤字定着

兆円 日本国際収支の長期推移

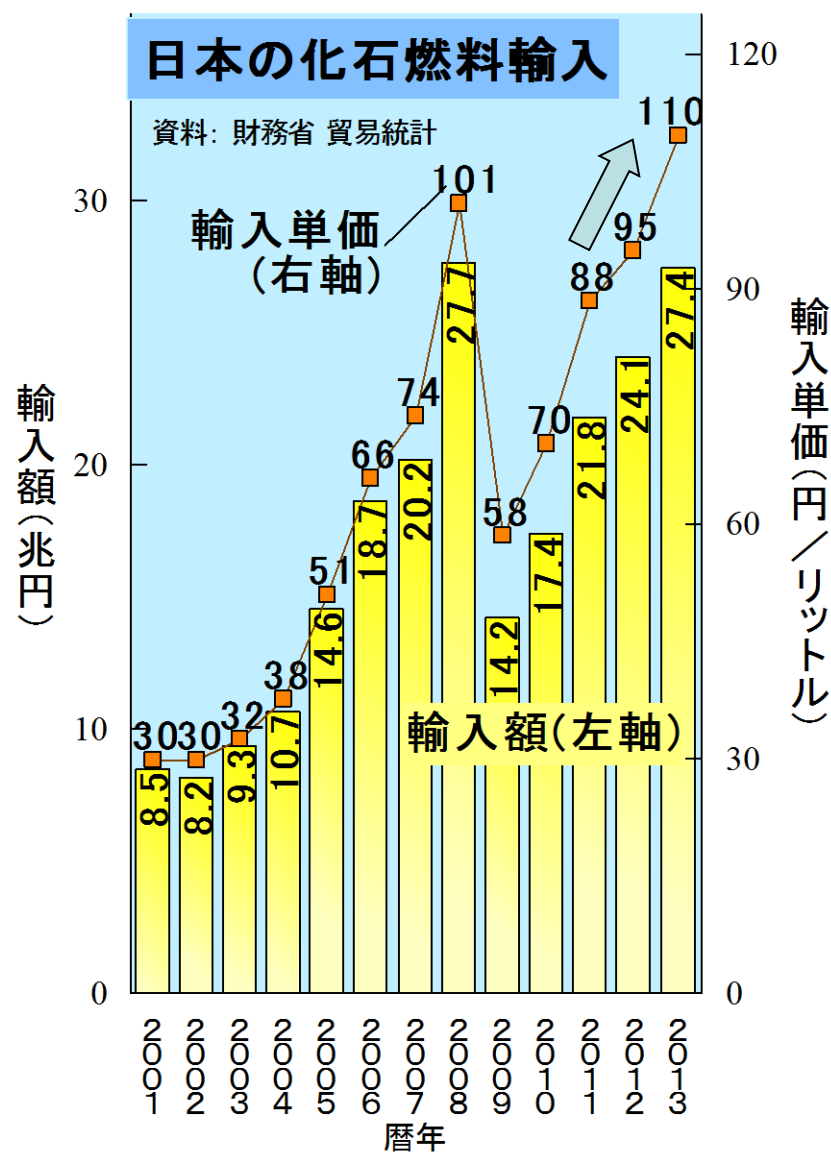
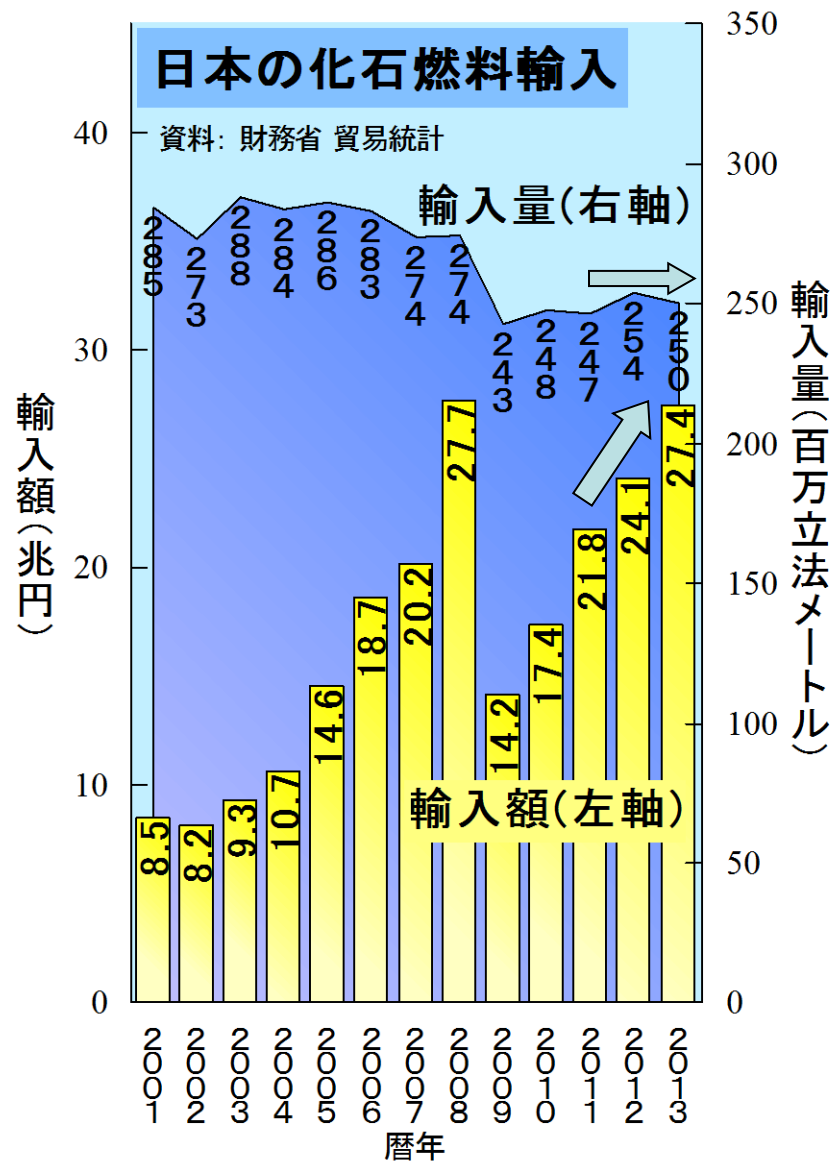


兆円 日本最新の国際収支

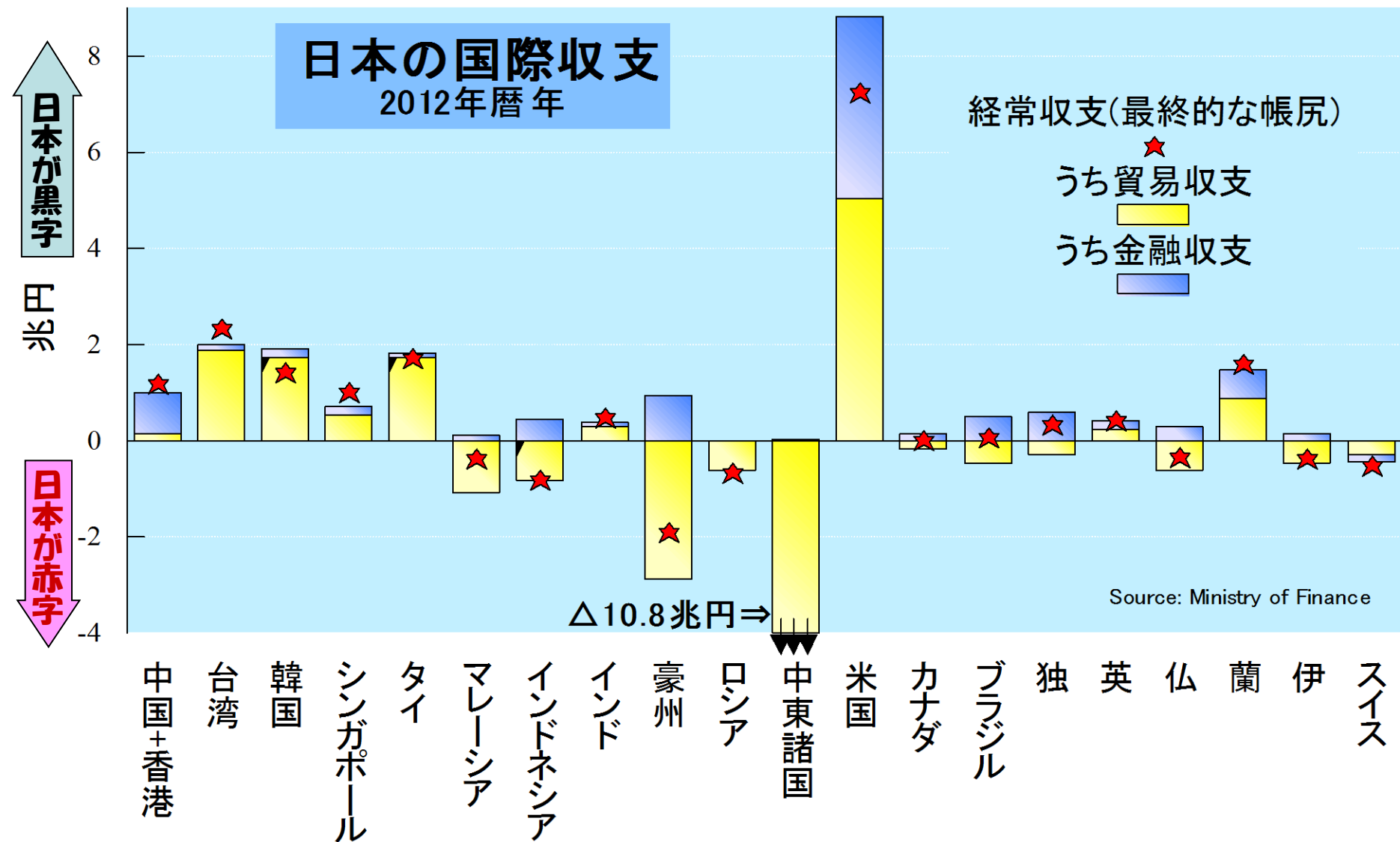


化石燃料輸入額増加の原因は 原発停止ではなく、輸入単価の上昇

14



ハイテクの稼ぎは燃料代でパーに¹⁵



日本の「国際競争」の現実

16

- × 日本の国際競争力は、バブル崩壊以降低下の一途。
- 日本の輸出額は、震災・超円高・ユーロショックの昨年でも、バブル期の1.5倍以上の高水準。
- × 日本はアジア新興国との競争に負けている。
- 中国(+香港)、韓国、インド、台湾、シンガポール、米国等に対し、日本は貿易黒字+経常収支黒字。
- × 円安に戻れば輸出が増えて、日本経済は再生する。
- 輸入燃料の高騰で、日本の貿易は逆ザヤ。
- 輸出(=売上)が増えれば増えるほど赤字が増大。
- 円安に戻れば、燃料代増加で赤字がなお拡大。

行き詰まったのは「低価格品大量生産」路線。

里山資本主義・田舎の3つの逆転

1. 大都市と田舎の高齢化大逆転

× **20世紀：高齢化する田舎 / 若々しい大都市**

○ **21世紀：高齢者が減る田舎 / 激増する大都市**

→ 大都市では今後高齢者が激増 / 田舎ではもう余り増えない

→ 今の病院や福祉サービスを維持できれば、幸せな老後が...

→ 先に高齢化した田舎で成り立つ企業が、全国で生き残る

→ 人口が少ない方が食料自給率や自然エネルギー自給率を高く保つことができ、長持ちする社会ができる

ただし問題は、年々深刻化する子供の減少と、若者の流出を止められるか。カギは、戻ってくる若者、移り住んでくる若者をいかに増やせるか

里山資本主義・田舎の3つの逆転

2. 山林が宝の山に変わる大逆転

× **20世紀：建物は鉄筋コンクリートか新建材フルハフ**

○ **21世紀：集成材を使った木造近代建築の時代**

- 燃えない、丈夫で長持ちで地震に強い、集成材建築が新登場
- 欧州では7階建てや9階建ての木造高層建築も増加中
- 地元産集成材を使えば、山の木が再び宝に化ける
- 集成材の副産物である木屑やチップを燃やすと、灯油より何割も安いコスト(場合により半額)で暖房や発電ができる！

ただし問題は、日本の施主がほとんど木造建築の技術革新に気づいておらず、集成材が使われず、木屑も発生しないので、発電もできないこと。

里山資本主義の実践① 木の燃料利用⁵⁵

きっかけは技術革新:

！ 石油缶を再生利用した手作りのエコストーブ

→ 少量の木切れを完全燃焼させて、おいしく煮炊き＋暖房。

→ 広島県庄原市の和田さん(過疎を逆手に取る会)の仲間が発明。

！ 木質バイオマスペレットによる発電

→ 集成材工場の副産物(産業廃棄物)である木屑をペレットに成型し、専用ボイラーで燃やすと、極めて高効率の発電が実現

→ 岡山県真庭市ではペレットは灯油の半額、電力の1割が木から

技術は既にあるが、課題は:

**！ 日本では生コン・鉄骨・新建材が全盛:頑丈で火にも強い
集成材建築がなかなか普及せず、木屑がない**

！ 建築基準法・消防法などの規制が時代遅れ

！ 国産材は供給体制が整わず、原料材は多くが外国産...

林業先進国（中欧の）オーストリア⁵⁶

日本より豊かな中欧の小国：

！ 人口は東北6県程度、一人当たり所得は1.5倍

- 天然資源もないアルプスの山国だが、日本より豊か
- 日本に対しても貿易黒字（スワロフスキーのガラス工芸が有名）

！ 過去10年ほどで林業大国になった

- 年間で自然に再生される森林資源の70%を利用
- 木は集成材に加工し、低層・中層建築は木造が当たり前に
- 年間に1兆円弱の木材資源を輸出し、外貨を稼ぐ
- 林業は収入の高い職業として若者に人気

！ 自然エネルギー大国

- 木屑を使った木質ペレットの利用が普及、価格も石油の半分
- エネルギーの3割弱が自然エネルギーで自給されている
- ペレットストーブやペレットボイラーを製作する企業も成長

里山資本主義・田舎の3つの逆転

3. 「産業」の大逆転

× 20世紀：「ハイテク工業時代」に出遅れた田舎

○ 21世紀：「6次産業の時代」の有望株・田舎

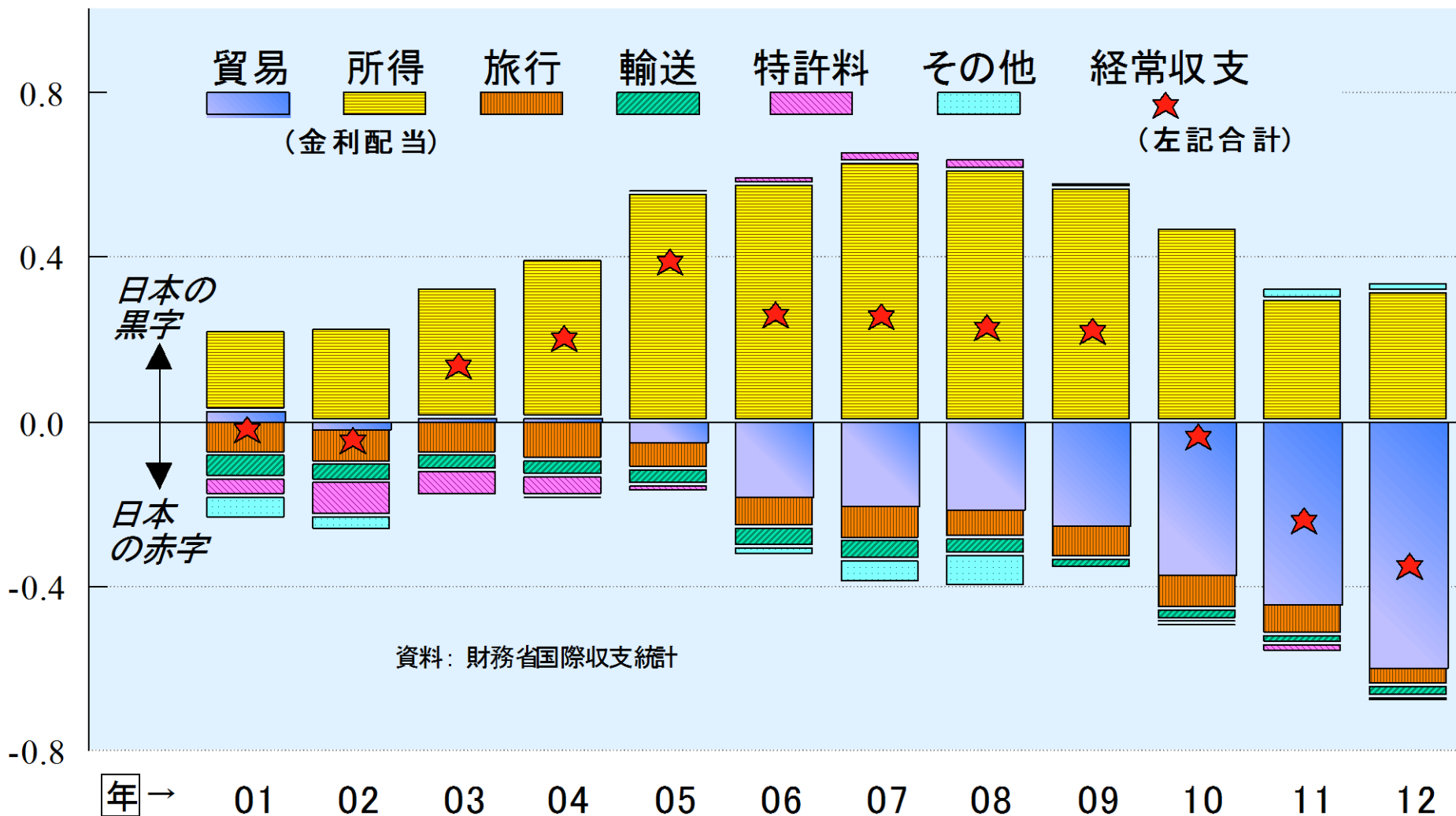
- ハイテク産業地域の苦境：商品陳腐化加速・低収益・雇用減
- 地元の農水産品に根ざしたブランド品や集客交流は好調
- 国際競争に強いのはスイスや仏伊など6次産業の強い国
- 大和の国も、里山の生活文化を生かしたブランド確立を！

ただし問題は、その肝心の田舎の地元産品が、安い原材料として東京に出て行くこと。カギは、地元での加工、ブランド化。量から質への転換。

ブランド品で対日黒字増大の仏⁵⁸

兆円

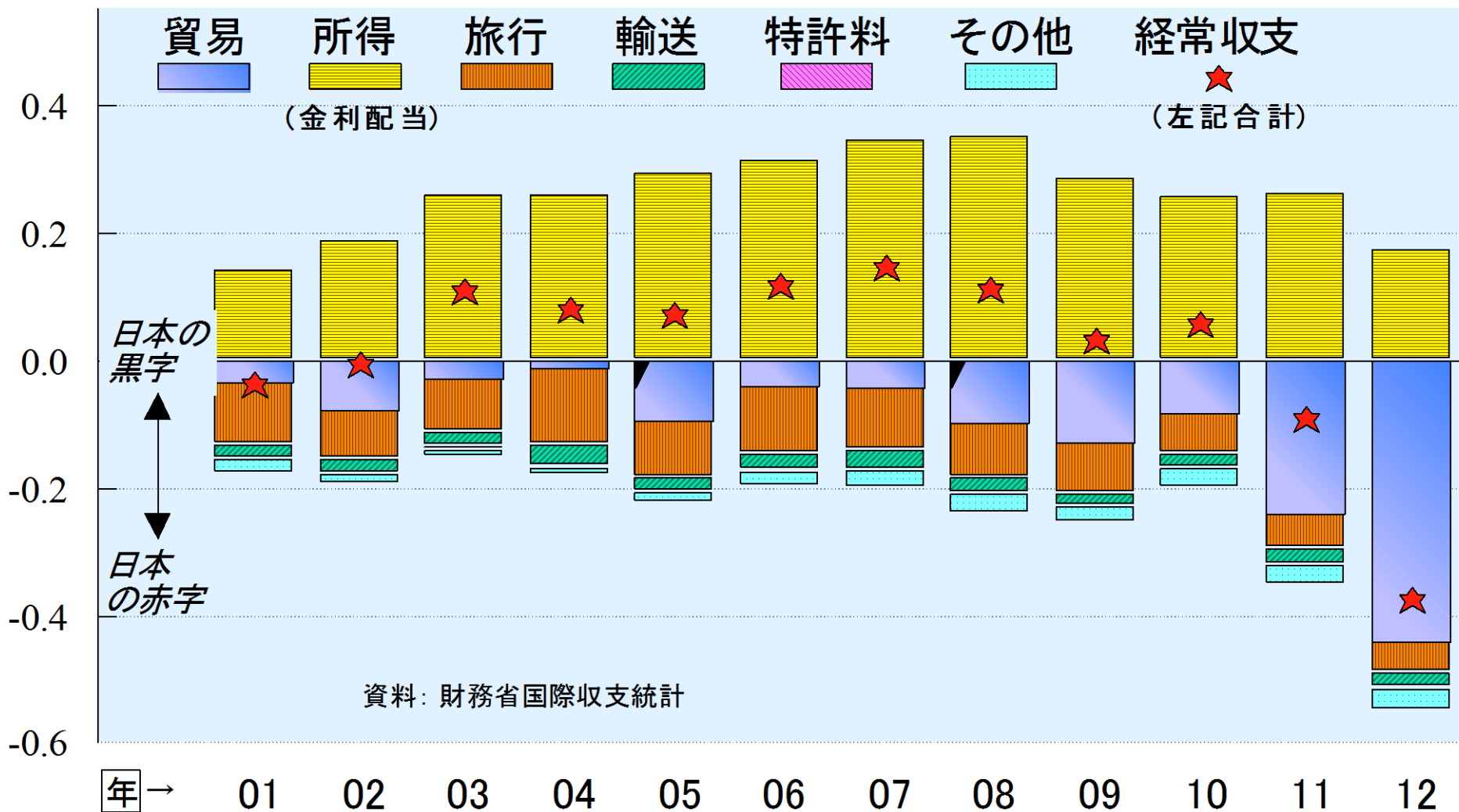
日本の国際収支の推移：対 フランス



ブランド品で対日黒字増大の伊⁵⁹

日本の国際収支の推移：対 イタリア

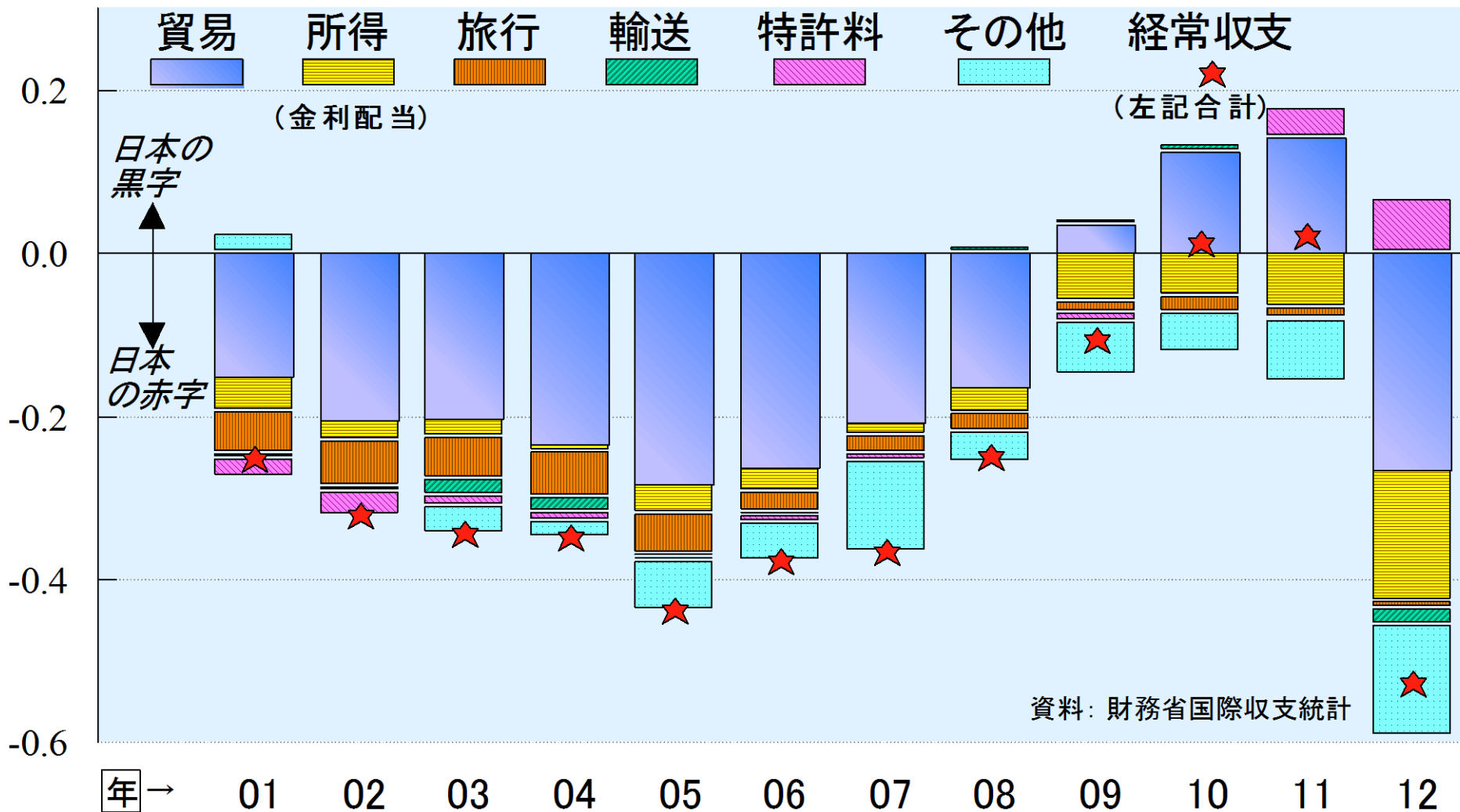
兆円



ブランド品で対日黒字復活のスイス

兆円

日本の国際収支の推移：対 スイス



日本と各地域の産業の活路

- × 円安とインフレ誘導によるデフレ脱却と景気回復に期待する
 - 円安は輸入食材や燃料価格を高騰させるので、経費が上昇し、多くの企業の収益は悪化する
 - 経費の増加を価格転嫁できない企業には、「インフレ」は単なる経費アップでしかない
- × 誰よりも安い価格を提供し、他が先に価格競争でつぶれていく中で、歯を食いしばって生き残る
 - 皆がそうすれば地域・業界の全体が赤字に沈む
- 客数が減る中で生き残るのは「値上げの天才」のいる地域・企業
 - 品質重視の客層相手に、十分利ザヤの取れる、ブランドのある商品・サービスを売って生き残る

里山資本主義の実践② 耕作放棄地活用⁶²

耕作放棄地は無用の土地なのか：

！ 先人による多年の土作いにより、肥えた土がある

！ 先人による給水システム造いにより、水もある

← しかし多くが狭い棚田で、大規模経営に向かず、担い手は引退

始まっている新たな取り組み(NHK広島制作の番組の中から)：

！ 島根県邑南^(おおなん)町「味蔵」「耕すシェフ」←肉と野菜

！ 鳥取県八頭町「ホンモロコ養殖」←淡水魚

！ 島根県石見山中「州濱さんの牛乳」←牛の放し飼い

！ 山口県周防大島町「ジャムズガーデン」←果実

！ 広島県尾道市「おへそカフェ」←麦「尾道帆布」←綿

！ 広島県庄原市「優輝^(ゆうしゃいん)グループ」←半端毛/野菜

国際競争を闘う！里山資本主義

63

- × 里山で「半農半X」で暮らすなんて、国際競争からの逃避だ！
- 日本の貿易赤字の原因は、年間20兆円を越える化石燃料代 → 木を燃やせば、赤字が減る！
- 食糧輸入は年間5兆円程度だが、農産物を家庭菜園で自給している人はこの削減にも貢献！
- × 里山にひきこもるなんて、国際人の対極のような生き方だ！
- 「里山を食い物にして生きている」タイプの活動的な人は、人脈も行動範囲もむしろ国際的！
- 人と自然が交わる里山は、日本にしかない資源として、世界の観光客をひきつけ始めている

東京こそ、公共投資の還流で生き延びてきた
内向き原理の町。東京人こそ国際競争をしろ！

近代経済学に挑戦する里山資本主義

GDP至上主義 vs 金銭換算できない価値(= 簿外資産)の再評価:

- ！ エネルギー自給促進→GDPは減少 / 域際収支改善**
- ！ 食糧自給(+物々交換)促進→GDPは減少 / 高齢者の生活不安減・健康増進 / 天災時の「靱性」増加**
- ！ 人の絆(ソーシャルインフラ)の強化、少子化への歯止め**

規模の利益 vs 極小の経済:

- ！ 規模の利益に背を向けた多品種少量生産 → 単価アップ・輸送ロス減少・天災時の「靱性」増加**

リカード的分業 vs 一人多役:

- ！ 少人数の臨機応変な一人多役で高効率を実現
(コンビニなどのバイトにも同じような原理が...)**

里山資本主義と経済学は弁証法的止揚へ向かう。

「里山資本主義」的地域活性化を⁶⁵

① 安さでは勝負せず高品質の商品で外貨獲得:

当地独自の生活文化に支えられた、ハイセンス・少量・高単価の「地域ブランド商品」「生活文化観光」で外から稼ぐ(=「いま」「ここ」にしかないものを売る)。

② 稼いだお金をもっと地域内でぐるぐる回す:

地域内産の食材、建材、人材の質を上げて地元で使い倒し(外からの安物は使わない)、未就労女性や障害者を雇用し、時短で「時給」を高め、兼業を奨励する。

③ 外から買うより地元産のエネルギーも活用:

地域内の建築物には地元産木材を使い、木屑の燃料利用を進める。小水力・風力・地熱も余さず使う。